

遙かな海路

巨大商社・
鈴木商店が残したもの

「鉄の町」

鈴木商店が礎を築き、日本の三大鉄鋼メーカーの一角を占める神戸製鋼所。JR灘駅の南西、神鋼記念病院（神戸市中央区脇浜町1）の入り口には「神戸製鋼所発祥の地」の碑がある。

1905（明治38）年、経営難に陥った小林製鋼所を買収し直営工場とした。「産業立国」を志した鈴木商店の番頭金子直吉が旗を振り、多額の資金をつぎ込んで苦難の末に製鋼技術を確立した。

南側のHAT神戸には神鋼の神戸本社が立つ。一帯はかつて、神鋼と川崎製鉄（現JFEホールディングス）が工場を構えた「鉄の町」だった。

近くの敏馬神社脇には大正期、鈴木の子会社日本輪業が工場を置いた。いまの自動車部品メーカー、ニチリン（姫路市）の前身に当たる。

唯一残る「鈴木」

「鈴木」の名を継ぐ唯一の企業、鈴木薄荷（灘区下河原通1）の本社は、

よねの寄進で再興した祥龍寺。境内にはよねの胸像などが立つ＝灘区篠原北町3



神戸市立神港高校の校舎。前身の神戸市立女子商業学校はよねの寄付を基に創設された＝兵庫区会下山町3



昭和初期に建てられた鈴木薄荷の本社ビル＝灘区下河原通1



焼き打ちに遭った鈴木商店本店跡では高層マンションの建設工事が進む＝中央区栄町通7



広大な鈴木よねの邸宅跡には、三菱重工業神戸造船所の社宅が立つ＝須磨区若木町2

NEXTに動画

世界見据えた発祥の地

プロローグ 足跡を巡る・神戸編

住宅街の一角にあった。辺りにはさわやかなミントの香りが漂う。

商品のハッカ油には鈴木商店と同じ「かね辰」マークが輝く。食品や医薬品向けメントールの国内大手だ。

「ちよつと待つてください。いいものがあります」と、常務の高畑新一（46）が持ち出したのは、木彫りの大黒さん。鈴木商店の番頭金子から繁栄を祈って贈られたという。高畑は、鈴木商店ロンドン支店長として活躍し、日商（現双日）会長も務めた高畑誠一のひ孫に当たる。

よねの胸像

女店主鈴木よねが寄進し再興した祥



神戸製鋼所発祥の地に立つ鈴木商店ゆかりの企業関係者。鈴木は資金を基に苦難の末、製鉄業を軌道に乗せた先人に思いをはせた＝神戸市中央区脇浜町1（撮影・田中靖浩）

龍寺（灘区篠原北町3）には、よねの胸像がある。鈴木を支えた番頭金子や同じく番頭の柳田富士松らの顕徳碑のほか、鈴木の子社員やその家族らでつくる「辰巳会」の供養塔も立つ。よねの長男、2代目岩治郎の娘婿でもある高畑誠一の墓がある。

初の子商業学校

よねは女性の教育に力を入れた。1917（大正6）年、わが国初の公立女子商業学校といわれる神戸市立女子商業学校（現市立神港高校、兵庫区会下山町3）の創設にあたり、現在の価値で数千万円を運営費として寄付した。

校長室には歴代校長と並んで、よねの顔写真がある。前校長の片山忠政（58）は「よねさんの教育への貢献はとて大きい。思いを未来に伝えたいですね」と話す。

同校は市立兵庫商業高校（北区）と再編・統合され、4月から神港・橋高に名前を変えて新たな歴史を刻む。

大邸宅と借家

山陽電鉄東須磨駅の西、三宮のビル群が間近に見え、大阪湾を一望する高台。鈴木よねの邸宅跡（須磨区若木町2）は敷地約1万3千平方メートルの広大さで、現在は三菱重工業の社宅になっていた。

当時は子会社神戸製鋼所の煙突や、行き交う所有船が眺められただろう。周辺には神戸岡崎銀行（神戸銀行などを経て現三井住友銀行）創業一族の岡崎邸や、一大財閥の小曾根邸など、西財界人の屋敷跡が集まる。海岸沿いの住友家の広大な別邸は、須磨海浜公園として整備されている。

南側斜面には邸内への通用口に使われた石積みみのトンネルが残る。NPO法人須磨歴史倶楽部の西海淳（64）は「戦時中は防空壕にもなっていました」須磨の西、源平の合戦場となった一ノ谷には金子直吉の屋敷跡（須磨区一ノ谷町2）がある。ここで熊をベツトとして飼っていた。ぜいたくを好まず、生涯ほとんど借家暮らしだった。すぐ北側に、壇ノ浦の戦いで母と共に身を投げた安徳天皇が、居所である内裏を置いたといわれるほくらがひっそりと立っていた。

◇ 続いて鈴木商店のものづくり拠点が残る相生、姫路を訪ねる。＝敬称略＝（高見雄樹）

（次回は17日掲載）